PIANO
林 菜月 大学院2年

PIANO
井坂 美月 大学院1年

PIANO
見原 さやか 大学院1年

ORGAN
赤塚 博美 本学教授

CONDUCTOR
森口 真司 大分県立芸術文化短期大学音楽科教授

洗足学園音楽大学　大学院コンサートシリーズ

大学院ピアノコンチェルト研究演奏会

〈第二夜〉

PIANO CONCERTO

E.グリーグ／
ピアノ協奏曲　イ短調　作品16

R.シューマン／
ピアノ協奏曲　イ短調　作品54

C.サン=サーンス／
ピアノ協奏曲 第2番　ト短調　作品22

2022.3/8[火]

開演 |18:00 開場 |17:30

洗足学園 前田ホール

⚠ 新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。

・大声や対面での会話はお控えください。

・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。

・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。

・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。

・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。

・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

==　PROGRAM　==

指揮　森口 真司（大分県立芸術文化短期大学音楽科教授）

電子オルガン　赤塚 博美

向田 真未（学部２年）　WANG QINGZI（大学院２年）　海老原 菜月（学部４年）

内海 菜々美（学部３年）　JIN TINGYAN（大学院２年）永田 凜太朗（学部１年）

弦楽器

vn.1 髙橋 沙織（大学院２年）　vn.2 菅野 稚子（大学院２年）

va. 加藤 可奈子（大学院１年）　vc. 大友 美侑（卒業生）　cb. 嶋野 晴斗（学部４年）

打楽器

大西 悠斗（大学院１年）　越中 亮太（大学院１年）　青柳 はる夏（大学院１年）

林 菜月（大学院２年）

E.グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品 16

Edvard Hagerup Grieg (1843-1907) // Piano Concerto in A minor Op.16

Ⅰ. Allegro molto moderato

Ⅱ. Adagio

Ⅲ. Allegro moderato molto e marcato

井坂 美月（大学院１年）

R.シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品 54

Robert Schumann (1810-1856) // Konzert für Klavier und Orchester a-moll Op.54

Ⅰ. Allegro affettuoso

Ⅱ. Intermezzo ; Andante grazioso

Ⅲ. Finale ; Allegro vivace

～　休憩　～

見原 さやか（大学院１年）

C.サン=サーンス／ピアノ協奏曲 第２番 ト短調 作品 22

Charles Camille Saint-Saëns (1835-1921) // Concerto pour piano et orchestre No. 2 g-moll Op.22

Ⅰ. Andante sostenuto

Ⅱ. Allegro scherzando

Ⅲ. Presto

■*Program Note*

■E.グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品 16

ノルウェー生まれのエドヴァルド・グリーグ(1843-1907)が作曲した唯一のピアノ協奏曲である。1868 年の夏に、結婚したばかりの妻のニーナと、その年の春に生まれたばかりの娘、アレクサンドラと共に滞在したコペンハーゲンで作曲された。初演は翌年 4 月 3 日にコペンハーゲンで行われている。衝動的で若々しい喜びに満ち溢れた一曲である。

第 1 楽章　Allegro molto moderato

一小節のティンパニのトレモロ・クレッシェンドに導かれ、強烈なオクターヴのカデンツァが飛び出し、曲が開始する。素朴な第一主題、飛び跳ねるような推移部を経過し、甘く美しく叙情的な第二主題はチェロパートから引き出され、ピアノに受け継がれる。

第 2 楽章　Adagio

弱音器をつけた弦が主題を奏する。デリケートでありながら、壮大な北欧の情緒をも感じられる非常にロマンティックな緩徐楽章だ。そして、曲は切れ目なしに終楽章につづく。

第 3 楽章　Allegro moderato molto e marcato

リズミカルな木管楽器から幕を開けるこの楽章は、最も民族的色彩を強く感じる。フルートの抒情的な旋律から導かれる第二主題では、雄大なノルウェーの朝の風を感じることができるだろう。ピアノとオーケストラで掛け合い、発展を続け華やかにクライマックスを迎える。

林 菜月（大学院 2 年）

■R.シューマン／ピアノ協奏曲 イ短調 作品 54

繊細さとダイナミクスさを兼ね備え、シューマンが書き上げた唯一のピアノ協奏曲である。1841 年に第 1 楽章に相当する「ピアノと管弦楽のための幻想曲」が作曲され 1843 年に改訂、その後クララの提案により 1845 年に第 2・3 楽章が付け足された。全体が出来上がった当初は各楽章が独立していたが、後に第 2 楽章と第 3 楽章を繋ぐ移行部が書かれて完成となった。ロマン派の多くの作品がピアノに華やかなヴィルトゥオーソ性を要求するのに対し、この曲はメロディーの掛け合いや、ピアノがオーケストラの伴奏を受け持つなどピアノがオーケストラ楽器の 1 つとして扱われている。

第 1 楽章 Allegro affettuoso

オーケストラの一打に煌びやかなピアノの下降和音で答え、極めてドラマティックに幕を開ける。印象深く哀愁漂うオーボエの旋律が奏でられ、直ぐにピアノで模倣される。華麗な技巧楽句に伴い、抒情的な性格を持つ楽章である。

第 2 楽章 Intermezzo Andantino grazioso

「間奏曲」という題に相応しい短い楽章である。軽く愛らしい主題がピアノとオーケストラで掛け合う。第 1 楽章の冒頭主題を回想させ第 3 楽章へ移行する。

第 3 楽章 Allegro vivace

輝かしく波打つ様なピアノとそれを彩るオーケストラの旋律が勢い良く進む。和声の変化が著しく、華々しく幕を閉じる。

井坂 美月（大学院 1 年）

■C.サン=サーンス／ピアノ協奏曲 第 2 番 ト短調 作品 22

カミーユ・サン=サーンスはフランスの作曲家、ピアニスト、オルガニストである。モーツァルトに並ぶ神童と言われ幼い頃から作曲と演奏活動を行っていた。このピアノ協奏曲 第 2 番 ト短調は 33 歳の時の作品で、時間に追われたためわずか 2 週間弱で作曲され、練習にも十分な準備もできずに本番に臨んだ作品として有名である。この協奏曲はサン＝サーンス初期の代表作であり、彼の全ピアノ作品の中でも傑作のひとつとして数えらている。
カデンツァのヴィルトゥオーゾ的な見せ場も十分に用意されつつ、管弦楽とともにつくりあげられるその響きは曲に幻想的な魅力をもたらしている。情熱と叙情性に満ちた作品である。

第 1 楽章 Andante sostenuto

自由なカデンツァに続き、ピアノソロにより提示される悲愴に満ちた第一主題は、サン＝サーンスの弟子であるフォーレが作曲した主題を借用したものであると言われている。短い動機を積み重ねた経過部につづき、第二主題が変ロ長調でピアノによって示される。短いコデッタを挟み、つづく中間部は、ソリストの見せ場である。分散和音の連続が非常に華やかでロマンティックな響きをつくりだす。引き続き奏される音形が、音楽的な加速を促し、響きの大きな渦をうみだすが、これが管弦楽による主題の再現を絶妙に誘導している。ピアノのカデンツァの部分では第一主題、経過部の動機を用いながら、音楽が高揚し、序奏への喚起へと曲を導く。そして最後は断固とした和音により、序奏の再現が行われ、堂々と曲を閉じる。

第 2 楽章 Allegro scherzando

ソナタ形式によるスケルツォ月楽章。ティンパニの軽やかな跳ね返りをうけてピアノが溌剌とした第一主題を奏する。第二主題は、ファゴット、ヴィオラ、によって歌われ、これがピアノで繰り返される。この二楽章では、主題の交換、すなわち戯れのような掛け合いが非常に魅力的で楽しめる。この掛け合いの合間をぬって奏されるソリストの音階やアルペッジョは、音楽に華やかな彩りを与えている。

第 3 楽章 Presto

ソナタ形式による。圧倒的な響きをもった 4 小節の導入部分につづき、リズミカルでおどけたようなピアノの第一主題が続く。第二主題はトリルを伴いながら力強く示され、音数を増やしながらエネルギーを増していく。展開部ではそれぞれの主題がリズムを巧妙に重ね合わせながら展開し、再現部、コーダへ。音楽はその勢い、緊張感を緩めることなく、終結まで一気に駆け抜ける。

見原 さやか（大学院 1 年）

■*Profile*

森口 真司
（大分県立芸術文化短期大学音楽科教授・大分大学非常勤講師）
Shinji Moriguchi ｜ 指揮

1964 年大阪府生まれ。大阪府立北野高校時代よりオーケストラ活動を始め、京都大学文学部を経て 1989 年東京藝術大学音楽学部指揮科入学。1995 年同大学大学院修了。指揮法を田中良和、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘の各氏に師事する。大学院修了後すぐ「プラハの春」国際音楽コンクール指揮部門において第 3 位受賞（1 位なし）、同時にプラハの春国際音楽祭に出演しプラハ放送交響楽団を指揮した。以降、東京フィルハーモニー交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、佼成ウィンドオーケストラ、大阪市音楽団など全国各地のオーケストラに客演する。また岩城宏之氏に認められ、2003 年から２年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務めた。在任中は定期公演、オーストリア・ベルギー公演、邦楽とのジョイントコンサート（石川県立音楽堂委嘱作品、多田栄一作曲「時の果てまで」初演）、テレビ金沢開局 15 周年記念演奏会等数多くの重要な演奏会で成功を収め、堀米ゆず子、リディア・バイチュ（ヴァイオリン）、ルドヴィート・カンタ（チェロ）、崔岩光（ソプラノ）、森山良子、加藤登紀子、山本邦山（尺八　人間国宝）など多彩なソリストと共演した。

オペラ指揮者としてこれまで 30 を超す作品を 100 回近く指揮し、大田区民オペラ・ベッリーニ「ノルマ」（「三菱 UFJ 信託音楽賞」受賞）ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」、モーツァルト劇場・オッフェンバック「シュフルーリ氏のサロンコンサート」「りんご娘」（日本初演）などが各方面から絶賛されるなど充実した活動が続いている。また東京二期会を中心に若杉弘、飯守泰次郎、佐藤功太郎、チョン・ミュンフン、クラウス・ペーター・フロール、エド・デ・ワールト、ペーター・コンヴィチュニー、宮本亜門など著名な指揮者・演出家のもと、ヤナーチェク「イェヌーファ」ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「さまよえるオランダ人」モーツァルト「皇帝ティトゥスの慈悲」「魔笛」「フィガロの結婚」ヴェーバー「魔弾の射手」レハール「メリー・ウィドウ」リヒャルト・シュトラウス「サロメ」「アラベッラ」「ダナエの愛」（日本初演）「ダフネ」（日本初演）チャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」など数多くの公演に合唱指揮者として参加、その手腕は極めて高く評価されている。2002 年から 2009 年まで東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスも務めた。

東京藝術大学、くらしき作陽大学、二期会オペラ研修所講師を経て 2008 年大分県立芸術文化短期大学音楽科に着任する。現在は本拠地を九州に移し、九州交響楽団ベートーヴェン第九交響曲大分・延岡演奏会、愛媛県合唱連盟 50 周年記念公演「メサイア」、ひむかオペラ（延岡市）第１回公演「こうもり」、大分二期会旗揚げ公演「魔笛」、福岡県合唱連盟ベートーヴェン第九、ホルトホール大分開館記念演奏会、文化庁・大分県立芸術文化短期大学共催「ヘンゼルとグレーテル」「フィガロの結婚」、世界的バレエダンサー首藤康之氏演出・振付によるバレエ「ドン・キホーテ」「眠りの森の美女」、大分二期会「こうもり」、第 33 回国民文化祭マーラー「復活」など数々の重要な公演の指揮を任されている。
現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科教授、大分大学非常勤講師。

赤塚 博美
（洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授）
Hiromi Akatsuka ｜ 電子オルガン

学生時代よりエレクトーンコンクール国際大会などで、数々の音楽賞を受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノスカラ座の G・ピサーニ氏に学び数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。繊細な音楽のニュアンスまでをも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。国際的フルート奏者の工藤重典氏と共演し、電子オルガンの可能性を引き出す演奏に絶賛され、繊細な音楽のニュアンスまでをも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。編曲、演奏を担当した CD “Message for You”を水野佐知香氏、神谷百子氏と共にリリース、好評を博する。現在、洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授。

林 菜月（大学院２年）Natsuki Hayashi ｜ ピアノ

県立弥栄高等学校音楽専攻卒業。洗足学園音楽大学学部を卒業し、現在、同大学院2年に在席。オペラ伴奏をはじめ、合唱団や声楽の伴奏を中心に多数演奏会に出演。アンサンブル活動を積極的に行っている。学部3年次、ウィーン研修にて現地での選抜演奏会に出演。室内楽研究、成績優秀者として、管・弦・打・ピアノ室内楽オーディション合格者による室内楽コンサート vol.23 に出演。第90回読売新人演奏会に声楽伴奏者として出演。室内楽を清水将仁に師事。現在、大学院にて江崎昌子、谷川明の各氏に師事。

井坂 美月（大学院１年）Mitsuki Isaka ｜ ピアノ

5歳よりピアノを始める。ピティナ・ピアノ・コンペティショングランミューズYカテゴリー全国大会入選、Pre 特級一次予選優秀賞。第12回東京ピアノコンクール一般A部門第2位。第29回日本クラシック音楽コンクール大学女子の部第4位（1～3位なし）。第8回日本バッハコンクール大学・大学院部門Bコース全国大会銀賞。 2017～2020年度前田音楽奨励賞受賞。2018～2020年度特別選抜演奏者認定。ルイス・フェルナンド・ペレス、グヤーシュ・マルタ、小林仁などの特別レッスン受講。現在、ピアノを新海未穂、佐々木恵子の各氏に、ソルフェージュを佐々木邦雄氏に師事。洗足学園音楽大学卒業。

見原 さやか（大学院１年）Sayaka Mihara ｜ ピアノ

東京都出身、8歳からピアノを始める。
都立総合芸術高等学校を卒業後、洗足学園音楽大学音楽学部に入学。
現在、ピアノを飯野明日香、山岸真由美、室内楽を新居由佳梨の各氏に師事。